

令和7年度
入学試験問題

第1回

国語

- 1 問題用紙は監督者かんとくしゃの指示があるまでは開いてはいけません。
- 2 開始のチャイムが鳴ったら、最初に問題用紙と解答用紙に受験番号と氏名を記入して下さい。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入して下さい。
- 4 記述で答える問題は、特に指定のない場合、句読点くとうてんや符号ふごうは一字として数えるものとします。
- 5 問題は1ページから16ページまであります。

受験 番号		氏 名	
----------	--	------------	--

森村学園中等部

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ヒトは自分のことを「自分」と認識しているし、誰も自分には「ころ」があると実感している。自分が存在しているという自己の実感がないと、たぶん普段ふだんの社会生活はできないだろう。では動物はどうだろう。実はこの問いに答えるのはかなり難しい。

近代哲学ていこくの父と呼ばれるデカルトは、人間は精神と肉体からなると捉えた。彼は、ヒトの精神には自己や「ころ」はあるが、動物にはそれらはないと考えた。(中略)

デカルトがヒトだけが自己やころを持つと考えた根拠は、言語を持つヒトだけが自己の存在を認識できる「自己意識」を持つとみなしたことにある。逆に言語を持たず本能に基づく紋切り型もんきりがたの行動しか取れない動物は、自己を振り返ることができず、自己意識はないとした。この考えに基づいて、現在でも動物とは異なり自己意識を持つヒトは特別な存在だ、とする考えが主流である。

(中略)

1970年にまさにこの人間中心主義の考えに異議を挟むような大きな発見がなされた。この年にチンパンジーが鏡に映る自分の姿を自分で認識できること(鏡像自己認知)を証明した論文が出たのである。

(中略)

私は大学生になった時からサークル活動として南日本の海岸や沖縄のサンゴ礁しょうごの海に潜り魚の行動や生活を見てきた。(中略)自分の観察や経験から、これまでの動物行動学が魚の動きは本能に基づいており単純だとする考えはおかしいし、魚はこちらが思っている以上に物事を理解していると確信するようになった。そして、2010年頃ころから、魚の賢さかしこについての研究を始めたのである。

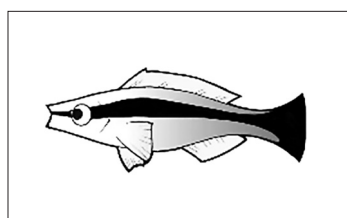
(中略)

ひよっとすると魚も自己意識があるのではないか、つまり、鏡像自己認知ができるのではないかと考えた。

(中略)

② 鏡像自己認知の研究にホンソメを使ったのには理由がある。掃除魚とも呼ばれるホンソメは、魚の体表についている小さな寄生虫を取って食べるので、寄生虫に似た模様やシミに注意を払うのだ。実際、ホンソメの尾鰭おびれ近くにつけた寄生虫のような印を直接見つけると、すぐに水槽すいそうの底で擦り落とそうとした。詳しくは後で述べるが、印が気になり擦り落とそうとするこの性質がこの実験で大事なのである。だからホンソメを実験対象とした。

③ チンパンジーと同じようにマークテストを行なった。ホンソメに十分に鏡を見せた後、自分では見えない喉のどに寄生虫に似た茶色い印をつけた。はじめに印をつけていない実験前には、鏡があっても喉はまったく擦らないことを確認する。そして茶色い印を喉につけ本番の実験である。鏡で喉の印を見たホンソメは、なんと喉を頻繁ひんぱんに擦ったのである。



ホンソメ

私は喉を擦る行動を初めてビデオで見た時、椅子から転げ落ちそうなほど驚いた。その印を水槽の底に擦りつけるのは、チンパンジーが手で触るのと同じ意味を持つ。現在、実験した28匹中27匹が喉につけた印を底の砂や石で擦っている。つまり、ほとんどの個体は鏡の姿は自分だと認識していたのである。対照実験として、鏡がなく喉の印が見えない時はどうするのかも調べてみた。印が痒いとか痛いといった刺激で擦る可能性も残っているからだ。しかし予想通り、鏡がなく印が見えないとまったく擦らないのだ。つまり、鏡に映る自分の体に寄生虫のような印を目で見た時、初めてそれを擦ったのである。これでホンソメは鏡に映る姿が自分だと認識することがほぼ証明された。さらに擦った後、寄生虫が取れたかどうかを、すぐに鏡を使って確かめるような行動さえ見られたのである。喉の印を擦ることの意味もわかっているようだ。えらいことになってきた。魚に鏡像自己認知ができるのである。

(中略)

もし、自分の体について印を寄生虫だと認識し、取り去ろうと擦ったのなら、同じ印でも寄生虫とは思えない印なら擦らないだろう。痛くも痒くもなく、どうでもいい単なるシミならわざわざ擦る必要はないからだ。そこで実験した。茶色い印と同じように印をつけるが色だけが違う。青と緑色の印で実験したが、こんな色の寄生虫はいない。

その結果は、ホンソメは青や緑色の印はまったく擦らなかったのである。もちろん喉の青や緑の印は鏡で見えている。それでも擦らないのは、擦り落とす必要がないと捉えていることを示している。逆にいうと茶色い印を擦ったのは単に痒いからではなく、視覚で認めた寄生虫を擦り落とそうという目的を持ち、意図して行動していた可能性が高いことを示している。ホンソメのマーケットの結果は、この魚が自己意識を持ち鏡像を自分と認識していると結論できる。

(中略)

ヒトは鏡を見ればすぐに自分だとわかる。その際、基本的には自分の顔を見て認識している。そもそもヒトは相手が誰かを認識する際、相手の顔を見てしている。ヒトにとって顔は、相手を識別するのに大事な場所なのである。

では、ホンソメはどうやって鏡の自分を自分だと認識するのだろうか？ ヒトと同じなら、ホンソメも鏡を見て自分の顔だとわかり、顔で鏡の姿が自分であると認識するはずである。A 魚独自の方法でするのだろうか？ 何せ魚はヒトとは分類的にも最も遠い動物群であり、我々にとって未知の方法があるのかもしれない。

そこでまた実験である。ホンソメがヒトのように自分の顔で鏡像自己認知するとの仮説から検討しよう。ヒトの顔は一人一人違っており、その違いで個体識別している。ホンソメがもし顔で鏡像自己認知や他者の認知をしているなら、その顔に変異があると予想される。ホンソメの顔をよく見るとそばかすのようなシミがあり、それが個体ごとに違っていったのだ。思ったとおりである。

まずはこんな実験をしてみた。まずは自分の写真と未知の他個体の写真を用意し、ホンソメに見せたのだ。鏡像自己認知ができるホンソメは他個体を攻撃するが、自分の鏡像は攻撃しない。もし、ホンソメが自分の写真を自分だと認識できるなら、見たことのない他個体の写真は

問一 ――①「この考え」とありますが、それはどのような考えですか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 動物は言語を使って考えることができず、本能に基づいた一定の行動しかとれない生き物なのだという考え
- イ 言語を使えるヒトだけが自己の存在を認識でき、言語を持たない動物は自分が自分だと認識できないという考え
- ウ ヒトは精神と肉体からなっており、ヒトは言語を持っていることによってころがあるのだという考え
- エ 動物が、ヒトと同じような「ころ」を持っているのかという問いに答えるのは、かなり難しいという考え

問二 ――②「鏡像自己認知の研究にホンソメを使ったのには理由がある」とありますが、それはホンソメにどのような特徴があるから

- ア ホンソメは、体を擦りつけて寄生虫を取ろうとするから。
- イ ホンソメは、体の表面についたシミを意識する傾向があるから。
- ウ ホンソメは、寄生虫のような模様を気にする性質があるから。
- エ ホンソメは、体表をチェックするように鏡を見る習性があるから。

問三 ――③「マークテストを行なった」とありますが、「マークテスト」の方法とねらいを次のような表にまとめた場合、

(X) ・ (Y) にあてはまる説明として適当なものをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

方法	ねらい
印をつけないで鏡を見せる。	(X)
印をつけただけで鏡を見せない。	鏡を見て、寄生虫に似た茶色い印を擦るのか、検証するため。
茶色い印をつけて鏡を見せる。	(Y)

- ア 体を擦ったあとに、印が取れたかどうか確かめる行動をとるのか知るため。
- イ 印による痒みや痛みの刺激で擦るのではないことを、検証するため。
- ウ 鏡があっても印がなければ擦らないことを確かめるため。
- エ 砂や石で印をどのように落とすのかということ調べるため。

問四 ——— ④「青と緑色の印で実験した」とありますが、「青」と「緑」の印をつけて実験したのは何のためですか。「寄生虫」「茶色い印」という言葉を使って、その目的を五十字以上六十字以内で説明しなさい。

問五 A・B にあてはまる語として適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア さらに イ たとえば ウ だから エ つまり オ それとも

問六 ——— ⑤「鏡像自己認知のやり方がヒトと魚で同じだったのだ」とありますが、ヒトと魚は何をもとに鏡像自己認知をすると考えられますか。漢字一字で答えなさい。

問七 ——— ⑥「ヒトの社会行動とその基本はかなり似ている」とありますが、ホンソメと似ている「ヒトの社会行動」の具体例として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 階段で転んだ人が持っていたかばんを落としてしまったので、かばんを拾ってあげる。
イ 同窓会でほかの友だちよりも目立つために、カラフルなワンピースを着て出かけていく。
ウ 自分より絵が上手なクラスメートに負けないように、絵画教室に通って腕をみがいている。
エ 駅で偶然出くわした会社の上司に、何度もおじぎをして丁寧にあいさつをする。

問八 ——— ⑦「魚のホンソメにはこころがあると言えるのだ」とありますが、なぜ、ホンソメにこころがあると言えるのか、その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 個体の外見や自分との関係がイメージでき、また、ねらいをもって行動することができるから。
イ 自分が自分であるとわかり、さらに他者からの自己のイメージを想像することができるから。
ウ 寄生虫に似た模様やシミに注目でき、さらに自分の体を清潔に保とうとする意識があるから。
エ 自分が相手とは異なる存在だと認識でき、また、自分の気持ちを相手に伝えようとするから。

問九 本文の内容を述べた次の説明文の中から、**適当でない**もの一つを選び、記号で答えなさい。

- ア 筆者は、魚は賢いと考えていたが、ホンソメの実験結果は想像を上回るもので、大きな衝撃を受けた。
- イ 鏡に映る自分の姿を、どのようにして自分だと認識できるのかは、チンパンジーに関しては証明されていない。
- ウ 複数のメスが一匹のオスと暮らしているホンソメは、異性に気に入られるような社会的振る舞いをする。
- エ 鏡像自己認知をしたホンソメは、見たことのない他の個体の写真は攻撃するが、自分の写真は攻撃しない。

問十 本文の論の進め方の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 従来の見解と異なる筆者の仮説をあげ、それを検証する実験を示し、そこから明らかになった結論を述べている。
- イ チンパンジーに関する先行論文と、ホンソメの実験との比較を軸に、新しい主張を展開している。
- ウ 近代哲学の考えを紹介し、具体的な実験結果をもとに、その考えの正当性を裏付けている。
- エ 多様な実験を通して、ホンソメと人の相違点と共通点を明確にしながら、今後の研究課題を提示している。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

高校入学式の朝、駅のホームでひたたくり犯を捕まえた荒谷伊澄は、犯人を足止めしようとした車いすユーザーの少女、渡辺六花と出会う。弁が立ち気の強い六花のことを、伊澄はヤな女だなと感じていたが、学校に着いてみると、六花は同じ高校の新生で、伊澄と同じクラスだった。数日後、クラスでは担任の矢地（先生）のもと、学級委員の選出が行われる。

「困ったなあ。これが決まらなないと、先に進めないですよ。みんなのクラスのことなんだから、みんなが考えて決めないと」

ため息まじりの矢地の声にかすかな苛立ちが混じり始めている。そこまで言うなら、もういっそ、あみだくじで決めたらどうだろうか。少なくとも沈黙の時間ばかりが過ぎていく事態は解決できるし、くじで決まったら不運な当選者も諦めがつくというものだ。「学級委員なんか立候補したら『何こいつ張り切っちゃってんの？』って思われそう」という心配もしなくていい。考えれば考えるほどあみだくじがいいよな気がしてきて、あと一分してもしんとしたままだったら提案してみよう、と伊澄が決めたその時だった。

「はっ」

澄んだアルトの声が聞こえると、教室が小さくざわめいた。伊澄も意表を突かれて自分の席から対角線を引つ張った位置にある席を見た。クラス中から注目されても、六花は手を挙げたまま表情を動かさない。

ひどく驚いた様子の矢地は、すぐに晴れやかな笑顔に切り替えた。

「ありがとう、渡辺さん。積極的であればいいです。ほかには？ 女子でほかに誰か、自分がやりたいという人や、この人にやってほしいという意見はない？」

同性の生徒たちに語りかける矢地はにこやかで、でも少し焦っているのが感じられた。

立候補者が出た時、ほかに誰かやりたいやつはいないかと確認するのは、別におかしなことじゃない。でもほかに手が挙がるわけがないのは、さっきまでの長すぎる沈黙の時間にわかつたんじゃないのか。

矢地は、手を挙げたのが六花じゃない女子だったら、同じようにほかに誰かいないかと確認したんだろうか。

「はい」

手を挙げた時、正気か、という自分の内なる声^①が聞こえた。クーリングダウンのジョグみたいに、何にも本気にならず、気ままに適当に三年間を流していくんじゃないか。学級委員なんて絶対におまえのキャラじゃないだろ。内なる自分が言うことは最初から最後までもつともで、しかし、もう現実には手は挙げてしまった。挙げた以上はあとに引けない。トラックに立ってスタートを切ったら、あとは何があっても走り抜くしかないのだ。

矢地は目をまるくして伊澄を見つめ、ほっとしたような笑顔になった。

「ありがとう。じゃあ、男子は荒谷くんをお願いしようかな。男子のみなさん、いい？」

「いいです」

軽いノリで返事したのは、後ろの席の上杉謙信うえすぎけんしんだった。本当はおまえみたいなのがいいのに、とイラッとした。

「それじゃ、女子でほかにやりたい人は——」

「渡辺さんじゃ、だめなんですか」

元から愛想のない声が、ますます無愛想になっていく気がしたが、そのまま続けた。

「やるって言うてるし、ほかの人っていつでも誰もいないと思います」

「うん、そうね……でも、学級委員は雑用をしてもらったり、居残りしてもらうこともあるから、負担になるかもしれないし」

「負担になる時は俺おれが代わりますけど」

「えっ……と、そうね……」

矢地が歯切れ悪く口ごもってから一秒後、

「はい」

やわらかいソプラノが聞こえた。中央の列の真ん中あたりに座った髪かみの長い女子が手を挙げている。矢地の顔が、ぱっと明るくなった。

「武井さん、立候補？」

「はい。こういう経験ないので、ちゃんとできるかわからないけど」

「大丈夫、大丈夫。何事も経験よ」

② どうして二人して、もう決定したみたいに話してるんだ。

③ 「じゃあ渡辺さん、立候補が複数出たので、投票で決めていい？ それかジャンケンを」

「いえ。もし武井さんがよければ、武井さんが委員になってください」

今度はふり返らなかつたから、伊澄には彼女の表情はわからない。でも、あいかわらずアルトの声は言葉の輪郭りんかくがくつきりとしていて潔かつた。

「そう、武井さんをお願いしていい？」

「はい」

「では、女子の委員は武井彩香たけい あやかさん、男子は荒谷伊澄くん、お願いします。それじゃ荒谷さんと武井さん、前に出てきて。次に書記を、そのあとは各委員を決めましょう」

④ 齒切れのいい話し方に戻った矢地に促され、伊澄は席を立った。やっぱりやめます、という言葉が喉まで出かけていたが、やっぱり、自分で言い出したことなのだからそれはだめだ。

「よろしく」

「うん、よろしくね」

彩香の笑顔は明るく、人の警戒心をほどくようなやわらかさがある。なんとなく、男子とも女子とも、どんな派閥のグループともうまくやっつけていけそうな器用さを感じた。

(中略)

「ごめんね、学級委員のこと」

放課後、綾峰駅のホームで偶然会った六花に、開口一番に言われた。

今日は五時間目の授業の途中で、まだ空気に微細な水の粒子が漂っていて、肌にしっとり冷たい。ホームの屋根の下から見える空は、晴れて青く光る部分と、低く漂う黒い雨雲の名残が混在していた。

「ごめんって何が？」

「荒谷くんが、私が学級委員になっても大丈夫なように色々言ってくれたのに、結局自分から降りたから」

伊澄は自分のみぞおちくらいの高さにある、小さく白い顔を見つめた。——本当に謎だ。逃亡する泥棒を目撃すれば行く手にとび出し、初対面の男子が失言すれば「私は車いすじゃなくて人間です」ときっぱり叱りつけるのに、そんな小さいことを気にするのか。

⑤ 「別に謝られることじゃないし、あれは俺が勝手にやっただけだから」

矢地が六花よりも彩香に学級委員をやらせたがっているのは、見ていけばわかった。その理由がおそらく、六花が車いすユーザーだからだということも。それはたぶんクラス中の生徒がわかっていたし、六花本人もわかっていた。あの時、クラスの全員が六花よりも彩香を選んでいたとは言わない。どうでもいいと思っっている人間のほうが多かっただろうし、中には六花を応援しているやつもいたかもしれない。ただ、いたかもしれない彼らは誰も声をあげなかったから、最終的にはいいのと同じだった。

そんな状況で「いえ、私がやります」と主張することがしんどいことくらい、あまり人の心の機微に敏くない自分にもわかる。

「はしごを外すっていうんだっけ？ 誰か立候補しないかって散々言っついて、それで立候補したら微妙な態度とるの見て、なんだって思っただけだから」

「はしごを外されるって受け身で使うほうが多いけどね。でも、しょうがないよ。先生が私で大丈夫なのかって心配になるのもわかる。私は、こうだから」

片眉をひそめた女優のような表情と迫力の台詞まわしでズバズバと攻められて、よくわからないが、ほっとした。

「だから、私は車いすじゃなくて人間です、とか、人といえるのにスマホいじったりイヤホン突っこむやつは殺したい、とか」

「殺したいだなんて物騒なこと言ってますよね、私？ 殺意を覚えるって言っただけで。あとこれも毒舌なんて誤解はしないでほしいけど、私の自己紹介のあとで矢地先生が『障がいは個性』って言ったでしょ」

「うん」

「私をポジティブに受け止めて使ってくれた言葉なのはわかってるの。その気持ちはすごくうれしい。けど、それでも、私はこれを個性と
は言わないでほしい」

彼女はまっすぐな目をして、静かに言う。

「私はやっぱり、自分の足で歩けるようになれるなら今すぐそうになりたい。でもそれは難しく、なんとか折り合いをつけて生きていかなきゃいけないって思ってる。毎日、毎日、何回も、歩けたらいいのって言う気持ちと、でも何とかやっていこうって言う気持ちを行ったり来たりする。だから私はこれを、個性なんていいものには思えないの。昔に比べたら今はずっとハンデを持つ人も自由に動ける仕組みができてるし、長谷川さんみたいに親身になってくれる人にもたくさん会ったよ。でもやっぱりまだ、爪はじきにされてる気持ちになることがある。私には入ることもできない場所が世の中にはたくさんあるし、誰かに助けてもらわなきゃ身動きがとれなくて、ああまた迷惑をかけてるなって消えなくなる時もたくさんある。私以外にも、そういう気持ちを持ちながら生きてる人たちがいる。それを、個性っていう言葉で見えにくくしないでほしい。もちろん、これは自分の個性だって思ってる人もいると思う。だから個性って言葉がだめだって言ってるんじゃないかって、なんていうか……………」

「わかった。個性って使う時は、よく考える。障がいとかでかいジャンルでくくるんじゃないやなく、俺の前にいる人がどう思ってるか、聞いて、話して、よく考える」

たぶんそういうことが言いたいんだらうと感じたので、そう答えた。六花は目をまるくしたあと、ふわっと笑った。

百点のテストに花丸をつけるみたいに。

(阿部暁子『カラフル』より)

※ 問題作成の都合上、文章の一部を省略したところがあります。

(注) *クーリングダウンのジョグ……スポーツ選手が身体の緊張をほぐすために、競技後に力を抜いて軽くジョギングをすること。「伊澄」は中学時代、陸上部に所属していた。

*人の心の機微に敏くない……他人の気持ちの微妙なニュアンスをうまく理解できない。

*長谷川さん……「六花」が通学で利用する綾峰駅の駅員で、車いすユーザーの六花のために親身になって手を貸してくれる。

問一 ~~~~~ a 「意表を突かれて」・~~~~~ b 「毒舌を吐いた」について、それぞれの意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

a 「意表を突かれて」

ア 信頼していたのに裏切られて

イ 思いもよらない出来事に驚いて

ウ 油断していたら出し抜けられて

エ 予想外の幸運がいきなり降ってきて

b 「毒舌を吐(く)」

ア 容赦なく相手をやりこめる

イ 相手を意図的に傷つける

ウ 遠慮せずに正しいことを主張する

エ 手きびしい皮肉や悪口を言う

問二——①「自分の内なる声が聞こえた」とありますが、このときの「伊澄」の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 学級委員に立候補はしたものの、そんな大それた役目が無気力な自分に務まるだろうかと、急に不安にかられている。
- イ 学級委員に誰も立候補しない状況を打ち破るために手を挙げたが、自分のキャラに合わないことに気づき後悔している。
- ウ 学級委員に立候補したことが自分でも思いがけず、それは自分の本意ではなかったはずなのにと自分自身に問いかけている。
- エ 学級委員に立候補してみて、自分にもそのような積極性があることに初めて気づき、自分の意外な一面に戸惑っている。

問三——②「どうして二人して、もう決定したみたいに話してるんだ。」とありますが、ここから読み取れる「伊澄」の心情の説明として、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 武井の立候補で教室の雰囲気が一変し、このままでは学級委員が武井に決定してしまいそうだとあせっている。
- イ まるで六花の存在を無視するかのようになり、矢地が武井と二人だけで話を進める様子に違和感を覚えている。
- ウ 六花に対しては冷たい態度をとっていた矢地が、武井には優しく接しているのを不公平だと腹を立てている。
- エ 矢地が独断で武井を学級委員に決めてしまったら六花が傷つくのではないかと、六花を気づかっている。

問四——③『いえ。もし武井さんがよければ、武井さんが委員になってください』とありますが、このセリフを音読する場合、どのよう

- ア 自分の代わりに武井が学級委員になることを心から祝福するようになり、ことさらに明るい口調で読む。
- イ 自分が辞退しなければならぬ悔しさを押し殺して、自分自身を納得させるような静かな口調で読む。
- ウ 自分が学級委員になれなかったのは武井のせいだと遠回しに責めるような、皮肉を込めた口調で読む。
- エ 自分が辞退することに迷いや未練がないことが伝わるような、よどみのないきっぱりとした口調で読む。

問五——④「歯切れのいい話し方に戻った矢地」とありますが、矢地が「歯切れのいい話し方に戻った」のは、なぜですか。その理由

を六十字以上七十字以内で説明しなさい。

問六 —— ⑤「矢地が六花よりも彩香に学級委員をやらせたがっているのは、見ていればわかった。」とありますが、これに関して、この

物語を読んだ中学生たちの会話を読み、設問に答えなさい。

生徒 A 「改めて学級会の場面を読むと、たしかに、矢地先生が六花よりも彩香（＝武井）に学級委員をやらせたがっていたのは明らかだよね。」

生徒 B 「そうね。最初に六花が立候補したとき、『ひどく驚いた様子の矢地は、すぐに晴れやかな笑顔に切り替えた』とあるけど、この部分の『 1 』という表現からは、その時の笑顔が『作り笑い』だったことが読み取れるよ。」

生徒 C 「それに、六花が立候補したのにすぐに決定しないで、なおも、ほかの女子に呼びかけているしね。」

生徒 A 「そのとき先生は『にこやか』な笑顔を見せているけど、それに続く『 2 』という表現からは、内心では、六花の立候補を歓迎していたわけではないことが読み取れるよね。」

生徒 B 「それに比べると、同じ笑顔でも、彩香（＝武井）が立候補したときの『 3 』という表現は極めて対照的だよね。」

(1) 『 1 』に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ひどく驚いた イ すぐに ウ 晴れやかな エ 切り替えた

(2) 『 2 』に入る言葉を、本文中から五字以内でぬき出しなさい。

(3) 『 3 』に入る一文を本文中に求め、最初の五字をぬき出しなさい。

問七 —— ⑥『『そういうところあったんだ、私』とありますが、ここから読み取れる「六花」の心情の説明として、最も適当なものを次

から選び、記号で答えなさい。

ア 歩けなくなる前の自分だったら、クラス内のできない人の分まで何でもこなして、矢地先生からあのような扱いを受けることはなかったはずなのに、悔しさをかみしめている。

イ 歩けなくなる前の自分は、同じクラスに障がい者がいなかったせいで多くの誤解をしていたが、矢地先生のふるまいを見て、二度と障がい者に悲しい思いをさせまいと心に誓っている。

ウ 車いすユーザーになる以前の自分は実力主義で、障がい者の存在自体が邪魔なのだと思いつけていたが、自分が矢地先生から同じように扱われて、それは誤りだったと深く後悔している。

エ 車いすユーザーになる以前は、自分自身も障がい者に対する理解が不十分だったことを振り返り、矢地先生から受けた扱いは仕方がないことだったのだと心静かに受け止めている。

問八

——⑦『私はこれを個性とは言わないでほしい』とありますが、「六花」が自分の障がいを「個性」と言わないでほしいと思っ

るのなぜですか。その理由の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア「個性」という肯定的な言葉で表現してしまうと、現実には健常者のようには扱ってもらえない障がいの否定的な側面が見えなくなってしまうから。

イ「個性」という言葉を障がい者に対して使うと、障がいをポジティブにとらえようとする話し手の意図があらさまになり、かえって相手を傷つけてしまうから。

ウ「個性」という言葉でひとくりに表現してしまうと、障がい者一人一人が抱える、それぞれに異なる問題や思いが感じ取れなくなってしまうから。

エ「個性」という言葉で人を分類してしまうと、健常者も障がい者も本来同じ人間で違いはないはずなのに、両者の隔たりを逆に広げてしまうから。

問九

この物語の内容や表現の特徴を述べた次の説明文の中から、**適当でない**ものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 物語は、主人公である「伊澄」の視点を通して描かれているため、地の文に、彼の心の中のつぶやきがそのまま表現されている箇所がある。

イ 「六花」と「彩香（＝武井）」のことを、「澄んだアルトの声」、「やわらかいソプラノ」のように、声の高さを表す音楽用語を用いて表現することで、それぞれの個性を印象づけている。

ウ 「伊澄」も「六花」も、第一印象はお互いに決して良いものではなかったが、いくつかの出来事を通して、それぞれが相手の内面に触れ、次第に理解を深め合っている。

エ 車いすユーザーである「六花」の悲劇性をことさらに強調して描くことによって、障がい者に優しい社会を築いていくべきだというメッセージを読者に訴えている。

三

次の①～⑧の——部のカタカナを漢字になおし、⑨～⑫の——部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① 庭に薬をサンプする。
- ② 受験勉強にセンネンする。
- ③ 車のモケイを作る。
- ④ 交通キノクを守る。
- ⑤ 息子のフンキを期待する。
- ⑥ 保育園に本をテイキヨウする。
- ⑦ 火事のケイホウになる。
- ⑧ 糸をていねいにタバねる。
- ⑨ 高波が打ち寄せる。
- ⑩ 兄は再来年、卒業する。
- ⑪ 時代の潮流におされる。
- ⑫ いすのねじが外れる。

